

2023年4月発行
社会福祉法人ありのまま舎
(障害者自立企画)

発行・編集責任者

白佐江藤 浩環

編集

〒982-8544

仙台市太白区西多賀4丁目19-1

TEL 022(243)1300

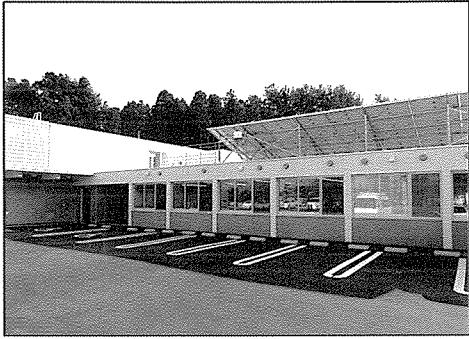
<http://www.arinomama.or.jp>

E-mail houjinarinomama@globe.ocn.ne.jp

1976年2月25日 第3種郵便物認可（毎週4回月・火・木・金曜日発行）
2023年4月14日発行 SSKO 通巻11342号

2023年度

社会福祉法人ありのまま舎事業計画



今年5年目を迎える地域生活支援拠点
「県南ありのまま舎」

D-19（以下、コロナ禍）との闘いは、世界中で多くの人々の命を奪い、後遺症等で苦しむ人々、更には生活や仕事に甚大な悪影響をもたらしました。当法人では、幸いにして職員、面会者等の努力により、今年3月1日現在、入居者の感染はここ3年余りの間で1名に留まり元気に快復されました。しかし、ありのまま舎においては、入居者利用者全て基礎疾患のある方々で、感染がもたらす生命危機の不安は今も拭えないと認識しています。コロナの解説が尽くされ、予防策と治療方法が確立されて初めてインフルエンザ相当への移行が可能となり、たとえ政府の方針が緩和されても安易に同様の対応に移行することは難しい状況です。引き続き、科学的根拠に基づく適切な感染対策を継続しつつ、過度な規制はせず十分に見極めながら、日常生活を回復することが求められています。こうした状況下で2023年度は始まります。

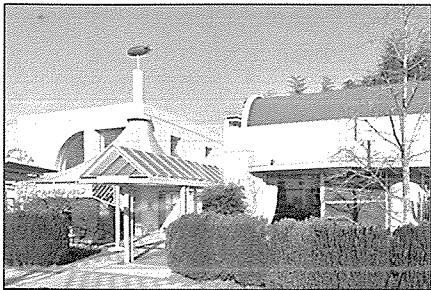
第2期5か年計画の前期2年目にあたり、コロナ禍において位後期3か年の準備期間として位置付けられており、一つの節目に当たる年です。後期3か年の成否を占う一年になります。新規事業の計画は予定されていませんが、2024年度以降に繋がる準備の重要な1年と認識します。各エリアにてそれぞれの基本方針を進めていきたいと思います。

薫る風

新年度が始まった。コロナへの対応に苦慮しながらも、四年ぶりに対面で開所記念会を開いた。入居者からは、特に新たな要望は今のところ出ていないが、職員から「研修に行きたい」「いろいろなところを見たい」「ヴォランティアの受入れを再開して欲しい等、この四年間のがまんが表ってきた。入居者・ご家族と理事・評議員だけの限定した形ではあつたが、職員の抱負を聞いて頂けたことは、励みになつたと思う。少しでも以前のように開放した扉にするための試みでもあった。既に入居者は外出外泊もされているし、普段の生活に近くなっている。インフルエンザも含めすぐに検査する体制等、「予防」「早期発見・早期対応（重症化予防）」「クラスター防止」の三段階で、医学的・科学的エビデンスを基にできるだけ細かく対応をした結果は入居者の感染は四年間で一名だけだった。何より、職員の感染は四年間で一名だけだった。何より、職員の感染法上はインフルエンザに近い扱いになるが、面会・来訪の方々の協力のおかげだが、何が功を奏したのかは、良く分からぬ。基礎疾患のある方ばかりで、世の中と同じ対応はとれない。また、感覚法上はインフルエンザに近い扱いになるが、発症前から感染するかしないかという違いは大きい。目に見えない以上、防ぎようがない。面会はご家族に限つてるので、事情をよくご理解頂けていたが、ご家族以外の方にご理解頂けるか。濃厚接触の概念や疫学調査、フォローアップセンターのような予防・追跡・相談・診断を行う場がなくなれば、その判断は遅れ、早期対応が難しくなる。り患し早期の有効な治療法がない以上、重症化リスクはより一層高まる。新年度最初の課題は五月八日以降どう対応をとるか。同時に失った時間と機会をどう埋め合わせるかに尽きる。相反するようだが、両立させねばならない。

（白江浩）

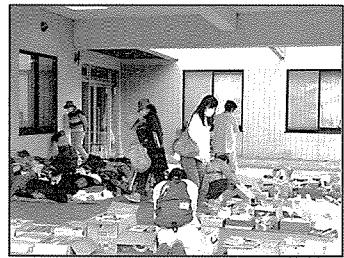
社会福祉法人 ありのまま舎



西多賀エリア〔法人本部・自立センター・自立ホーム・サポートケア仙台・ライフケア仙台〕

【理念の発信】

【活動センター】



コロナ禍でバザー会も大きく変わりましたが、少しずつ以前の形に戻りつつあります。

【自立センター】
バザーやショッピングを運営し、活動資金の捻出と地域交流を深めることを目的に年間を通じて開催を継続しています。コロナ禍で規模の縮小、お客様の減少はありますが感染症対策を行なう限り行つていきたいと思います。

【自立センター】
情報の発信源です。私たちの活動の理念が具体的にどのように実践され、「果たすべき課題」に取り組むことを多くの皆さんに伝える手段としてさらに誌面の充実を図つていきます。

1. ケア「ミニユーティの創造
～お互いのありのままの存在を認め、尊重し、共づくり～」
2. ケアの本質に沿ったコミュニティづくりを目指す
3. 誰もが生きた意味を見出し、役割を担い、自らの人生を全うでき、自己実現できるコミュニティづくりを目指す
4. 多様な人々、専門性、分野が相互作用し、ケアしあうコミュニケーションづくりを目指す

理念の発信活動はありのまま運動の原点ですが、実施体制が不安定な中停滞しています。コロナ禍の新たな段階への移行の中で、「第34回ありのまま生活講座」「第23回ありのまま自立大賞」の開催を昨年に引き続き目指していきます。

会報「自立」の発行は大切な情報の発信源です。私たちの活動の理念が具体的にどのように実践され、「果たすべき課題」に取り組むことを多くの皆さんに伝える手段としてさらに誌面の充実を図つていきます。

新型コロナの流行の前と比べるとまだお客様が完全に戻つてないところも多いですが、以前以上の盛り上がりが出るよう、頑張って参りますので、ぜひお近くの会場へ足を運んでみてください。

（副主任 川尻誠）

【仙台エリアコミュニティ】
仙台市地域生活支援拠点構築のため準備を整備し、2024年度に備えることが目標です。

※地域生活支援拠点とは
①相談機能 ②緊急受け入れ
③体験の機会・場所 ④専門的人材の確保・養成。医療的ケアが必要な方、行動障害の方を専門的に対応できる体制。
⑤地域づくり。以上5つの機能を有した拠点のことです。
そのためホームケア仙台ありのまま舎（グループホーム）の日中支援型への転換準備が不可欠となり、太白ありのまま舎（障

害者支援施設）の40名定員の実現と体制整備、ライフケア仙台（ヘルパー派遣）の再開、チャイルドケア仙台（保育園）の安

定運営と障害・難病のこども支援体制の強化等が一体化に求められます。それらの拠点の中核となり調整の役割を担う行うサポートケア仙台（相談支援）の体制強化も進めて参ります。

【サポートケア仙台ありのまま舎（難病・障害者相談支援センター）】
障害児者相談支援事業は、障害のある方や、家族にとっての身近な相談先としての役割を担い、希望や困り感に寄り添つたサポートを開設しています。サポートケア仙台ありのまま舎は、障害児者計画相談支援事業所として、法人内事業所の太白あらのまま舎と並びありのまま舎の入居者や、サポートケア仙台ありのまま舎がある仙台市太白区で地域生活されている方を中心としたサービス等利用計画・障害児支援利用計画作成業務に向かって利用者主体で進めて参ります。

【西多賀エリア】
【ホームケア仙台ありのまま舎（リビングセンター）】

今年度も「支援」と協力の程度を高め、支援型転換を検討しており、日中から夜間も含め24時間体制のグループホームによって加齢と共に重複・重症化が進んだ方でも長く生活が可能になります。そのための居室整備や人員配置など多くの課題がありますが、しっかりと検討を重ねていきたいと思います。

今年度も「支援」と協力の程度を高め、支援型転換を検討しており、日中から夜間も含め24時間体制のグループホームによって加齢と共に重複・重症化が進んだ方でも長く生活が可能になります。そのための居室整備や人員配置など多くの課題がありますが、しっかりと検討を重ねていきたいと思います。

【ライフケア仙台ありのまま舎（ケアセンター）】

ヘルパー派遣を行い在宅の支援を行う事業です。昨年10月に人員確保が難しく休止となりました。今年度早期再開を目指します。

3月に新しい入居者を迎えた名となりました。穏やかな季節になりました。今年も入居者も増えてきました。今年も入居者、スタッフ共々元気に過ごすことができるようだと思っています。

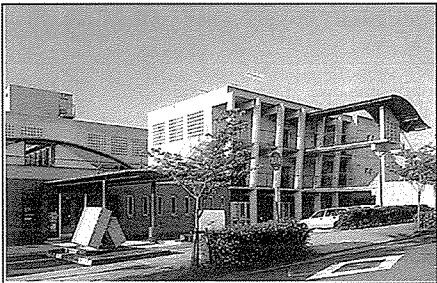
（ホーム長 佐藤環）



法人体制

事務局体制は徐々に整いつつあります。監事、弁護士、会計士、税理士、社会保険労務士の各顧問による指導体制も軌道にのり、運営の体制構築を更に進めたいと思います。人材不足は慢性的ですが、ケアの質を上げ退職者を出さない人材養成、人材定着への注力も徹底していきます。寄付金の落ち込みが大きく経費の見直し、人件費の削減とそのための人員配置の見直しが急務です。

2023年度がスタートしました。コロナ感染症がようやく収まりつつあります。しかしながら私達が支えている入居者利用者は基礎疾患のある方が大半になります。感染症に対して気を緩めることがないように取り組んでいきたいと思います。また法人を支えていただいている皆様が年齢等の関係もあり少しずつ減少傾向にあります。法人や各事業所・セクションの活動や様子をより広く皆様に知つていただきながら支援の輪を大切に会報「自立」含め周知活動等に取り組んでいきたいと思います。並びに法人全体で入居者・利用者・スタッフ含め健康で安定した生活ができるよう、健康経営の取り組みを継続していきたいと思います。



茂庭台エリア〔太白ありのまま舎・ チャイルドケア仙台〕

【茂庭台エリア】

太白ありのまま舎】

【ケア】

運営の体制構築を更に進めたい
と思います。人材不足は慢性的
ですが、ケアの質を上げ退職者
を出さない人材養成、人材定着
への注力も徹底していきます。
寄付金の落ち込みが大きくなり
費の見直し、人件費の削減とそ
のための人員配置の見直しが急
務です。

2023年度がスタートしまし
た。コロナ感染症がようやく収ま
りつつあります。しかしながら私
達が支えている入居者利用者は基
礎疾患のある方が大半になります

ケアスタッフ間で意見を出し合い、活気溢れるケアを提供していきます。

2023年度がスタートしました。コロナウイルス感染症は徐々に収まりつつありますが、基礎疾患があり、重症化リスクが高い方々が多く生活している太白あります。そのまま舍の入居者にとっては、まだ予断を許さない状態が続きます。その様な状況ではあります。ですが、今年度の目標として、入居者の安全・安心した生活の提供を行います。そのと共に、ルーティンにとらわれず、日々変化する入居者一人一人の気持ちに寄り添ったケアを行っていきます。

〔メデイカル〕

の発生から今日までワクチン接種に追われた事がこれ程あつたかと改めて思います。そんな中つい最近6回目接種の希望を募る連絡が入り「エンドレスだな！」と感じてしましました。「基礎疾患・高齢者・医療従事者（エッセシャルワーカー）」は今まで同様ですが、先ずは入居者の一人一人の生命を守る！安心安全に日々を送れる！を心に、予防接種何度でも来い！と思つてしまふ今日この頃です。

【アクティヴィティケア】
日中活動として、入居者の日中の時間をより良いものにしていくべきだと思っています。また外部利用者も日中の介助サポートを継続しつつ、入居者と外部利用者が活動をしていく中で、風通しを良くしていきながら、様々な考え方や今後のお話しが出来るようにサポートしていくたいと思っています。リハビリでは入居者や利用者の身体を継続的に見ながら改善・現状を維持していくようにサポートしていきたいと思っています。また、昨年同様車椅子の申請等の補助も行っていきます。

(アクティヴィティケアチーフ
正義信一)

【アクティヴィティイケア】

【栄養マネジメント】
栄養マネジメントでは、週二回

保育園では子どもたちの沢山の笑顔あふれる日々を過ごしていきたいと思います。



ように、多職種で定期的に食事面の観察、会議も行っています。来年度も少しでも長くお口から召し上がる事ができるよう、サポートしていきたいです。

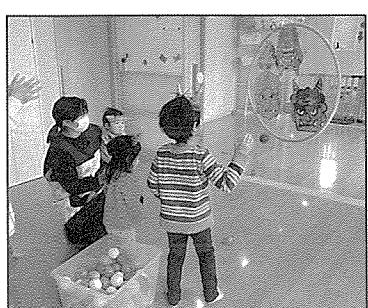
最後に、入居者の方が健康に生活できるように、栄養指導にも力を入れて行きたいと思います。

（栄養マネジメントリーダー
本庄里緒）

桜が少しずつ咲きはじめ、色とりどりの草花や虫を探しに出かける日々が楽しい季節になりました。

【チヤイルドケア
仙台ありのまま会保育園

【栄養マネジメント】
栄養アセスメントと計画 第二回



(園長 春日麻里)

名取エリア コミュニティ

【サポートケア名取ありのまま舎】

【難病・障害者相談支援センター】

名取エリアでは基幹相談支援センターセンター設置、新資源の増加に伴う地域生活支援拠点の在り方の見直しと様々な機関との連携体制作りをサポートケア名取が中心に検討を進めていきます。

令和5年度は、第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の最終年度となり、5年度末までが期限の成果目標が複数あります。児童発達支援センターの設置や医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置及びコーディネーターの配置、地域生活支援拠点等の確保、総合的・専門的な相談支援の実施及び地域の相談支援体制の強化を実施する体制確保等、多岐に渡つており、名取市障がい者等地域づくり協議会の中でも度々議論に上がっています。新年度も少しでも多くの課題が解決できるよう、関係機関の方々と協働していきたいと思ひます。

(センター長 熊谷経子)

県南(岩沼市・亘理町等) エリア コミュニティ

【難病ホスピスケア 亘理ありのまま舎】

各セクションからの抱負です。

難病ホスピスケア亘理ありのまま舎(施設入所・日中活動)ショートステイ)サポートケア亘理ありのまま舎基幹相談支援センター、サポートケア県南ありのまま舎(相談支援)が活動を担う拠点です。

地域生活支援拠点設立から丸4年が経過し5年目に入ります。この1年で全体の運営は安定してきましたが、本来目指した地域生活支援拠点の機能は十分に果たせておらず、制度的に求められている5機能(相談・緊急時の受け入れ・体験の機会の場・専門的人材の確保と養成・地域の体制づくり)に加え、「被災防災減災支援」「人権擁護」「居住支援」についても拠点機能として発信し、8機能の実現を目指します。



地域生活支援拠点「県南ありのまま舎」

【メディカル】

開設から間もなくコロナ禍となり体制作りの変更が余儀なくされ、感染者を1クラスを10名に削減する事を第一の目標に掲げ

支援体制の立て直しを実施し、スタッフの協力あって、今まで問題なくこぎ着ける事が出来ました。1~2名からスタートしたご入居者は、入居期間も長くなり、障害の重度化、病気の進行も少しずつみられます。お一人お一人のニーズに合わせた根拠のある質の高いケアが提供出来る様、スタッフ一同努力を惜しまず進んで行きたいと思います。

ショートステイ、日中活動についてはコロナ禍という事で利用定員を3名として受け入れを進めています。今後はコロナ等感染症の流行の推移を把握しながら、より多くの必要な方々の受け入れを目指していきます。

(サービス管理責任者・アクティヴィティケアセンター長 金子仁)

障害児利用計画の策定が十分に成されるよう相談支援体制の整備に取り組む。」です。

二つ目は、「前年度に引き続き、障害児者が地域でその人らしい生活を各ライフステージで送ることができるよう、家族を含めた複合的な地域課題等を解決するため亘理町障害者等地域自立支援協議会及び地域ケア会議の場を活用し、課題解決に向け多職種連携で取り組む。」です。

三つ目には、「継続し、障害児者、家族、亘理町福祉課、総務課、民生委員児童委員、相談支援事業所等との連携と協働により、障害児者(災害時避難行動要支援者等)の災害時避難計画を作成し、災害時における横断的な支援体制を構築する。」です。

三つの重点目標を実現するためには自立協が中核となります。「連携」と「協働」のもと関係機関が参画し、目標を達成できるよう努めて参りたいと思います。

【サポートケア亘理ありのまま舎基幹相談支援センター】

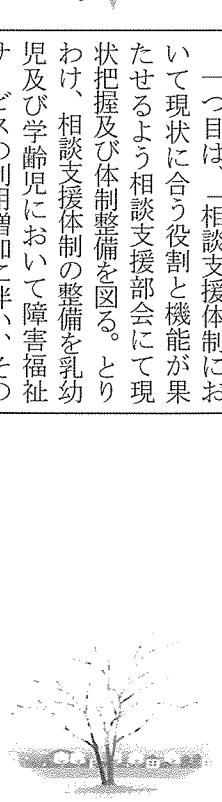
菅野優子

(センター長 菊地理)

新年度となり、当センターが開所し五年目を迎えた。今年度の重点目標は昨年度に引き続き三つ掲げました。

一つ目は、「相談支援体制において現状に合う役割と機能が果たせるよう相談支援部会にて現状把握及び体制整備を図る。とりわけ、相談支援体制の整備を乳幼児及び学齢児において障害福祉サービスの利用増加に伴い、その

一つ目は、「相談支援体制において現状に合う役割と機能が果たせるよう相談支援部会にて現状把握及び体制整備を図る。とりわけ、相談支援体制の整備を乳幼児及び学齢児において障害福祉サービスの利用増加に伴い、その



第34回

ありのまま 生活福祉講座



日時

令和5年6月10日(土)
13:30 ~ 16:00

あきこじょおうでんか
座長 杉子女王殿下

場所

仙台市福祉プラザ ふれあいホール

〒980-0022 仙台市青葉区五橋2丁目12-2

参加費

一般 2,500円(学割・団体割有り)

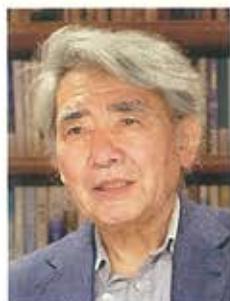
会員 2,000円(年会費 2,000円、入会金初回のみ 1,000円)

講師

ながた かずひろ
永田 和宏氏

(歌人、JT 生命誌研究館館長、京都大学名誉教授、京都産業大学名誉教授)

「言葉の力」



よしだ しょう
吉田 翔氏

(長崎みなどメディカルセンター、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医、元デフリンピックバレーボール日本代表)

「聴覚障害をもっと知ってほしい」

ありのまま生活福祉講座とは

福祉を身近なものとして理解して頂き、共に考えていく場となることを願い、1987年より毎回開催しているものです。当講座の座長には、前座長の故寛仁親王殿下の第一女子であられる杉子女王殿下が、第29回よりご就任くださいました。福祉にとらわれず各方面にわたってご活躍されている方々を講師にお招きして開催しています。



あきこじょおうでんか

【座長】彬子女王殿下

寛仁親王殿下の第一女子として誕生。学習院大学を卒業後、オックスフォード大学マerton・コレッジに留学。日本美術を専攻し、海外に流出した日本美術に関する調査・研究を行い、2010年に博士号を取得された。女性皇族として博士号の取得は史上初のことである。子どもたちに日本文化を伝えるために、ご自身で一般社団法人「心游舎」を創設、総裁に就任され、全国各地でワークショップなどを行われている。

会員特典（限定 300 名）

福祉講座会員とは、本講座の意義をご理解頂き、長い目でご協力頂ける方になります。

会員は、初回のみ入会金 1,000 円と年会費 2,000 円がかかりますが、その年の福祉講座参加費が無料となります。また、下記の受講ノートが貰え、講座に参加する度に、受講印が押印されていきます。



受講ノート

オリジナル座長印



ありのまま生活
福祉講座 座長
彬子女王

受講印

ご案内**受講料について**

直接、チケットをお買い求めいただくか、お振込みでのお支払いが可能です。

お振込みでのお支払いをご希望される場合は、お申し込み後に当舎からご自宅へ振り込み用紙を送付いたしますので、そちらをご利用ください。

申込方法

お申し込みはお電話、FAX、メールにて可能です。お電話の際は、以下の受講申込書の内容をお伝えください。FAX、メールの場合は、以下の受講申込書にご記入の上、データをご送信ください。

申込先・お問い合わせ先

社会福祉法人ありのまま舎

〒982-8544 仙台市太白区西多賀 4-19-1

電話 022-243-1300

HP <http://www.arinomama.or.jp/>

FAX 022-243-0322

E-mail houjin-arinomama@globe.ocn.ne.jp**受講申込書**

お申し込みされる方について、必要事項のご記入と当てはまるものに○をお願いします。

ふりがな
氏名

住所

電話番号

メールアドレス

【会員区分】

一般・会員・新規会員申込み

【お支払い方法】

事前手渡し・事前お振り込み・当日現地支払い

2名以上でお申し込みされる場合は、この用紙をコピーしてお申し込みください。

【サポートケア県南ありのまま舎(難病・障害者相談支援センター)】

サポートケア県南ありのまま舎は、岩沼市と亘理町から委託を受け基本相談支援を事業の柱として継続して実施します。障害のある方やその家族等からの様々な相談に応じ、生活上の困り感や希望の実現に向けたお話を伺いながら伴走型での相談支援を実践していくとともに、生活全体を考えながら必要となる福祉サービスを利用しながら暮らしや日中活動等を進めていく方へのサービス等利用計画・障害児支援利用計画作成も合わせて実施しております。

今年度も皆様のご支援ご協力を頂きながら歩みを進めます。どうぞよろしくお願い致します。

(センター長 齋藤栄樹)

各事業所で避難訓練・防災及び減災基本規程の策定

**【難病ホスピスケア
太白ありのまま舎】**

【難病ホスピスケア

ありのまま舎では「防災及び減災基本規程」を2022年4月1日に定めました。様々な災害に備え、救命、復旧、復興、業務継続体制を整え、入居者・利用者・職員・家族等の生命、人権、財産、生活等を守ることを目的としています。

その中の「第7条・ミニューション」では3月11日(東日本大震災)、9月1日(防災の日)を基準日として、「火災」「地震」「風水害」別に災害発生時への対応基本シミュレーション実施計画を策定しました。その規定に沿って、3月に火災を想定した避難訓練を入居者が暮らす事業所で実施しました。

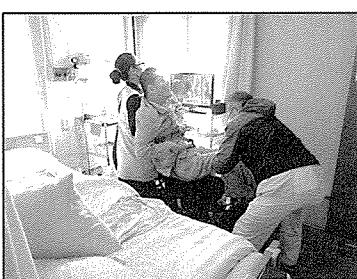
各施設、グループホームでは入居者の進行及び高齢化による重度・重症化が進んでいます。火災以外にも「地震」「風水害」など様々な災害を想定したシミュレーションを実施していきました。また防災訓練等では地域住民の方の参加や地域の訓練に参加するなど日頃より連携をとつていくことも確認し合いました。

入居者は29名(3/31現在)となり、有事において、適格な避難誘導の判断が出来る様に訓練を積み重ねていきたいと思います。

(金子仁)



ホールへ避難



スタッフ2人体制での移乗



初期消火の様子

【ホームケア仙台ありのまま舎リビングセンター】

【ホームケア仙台ありのまま舎リビングセンター】

訓練日時 3月20日(月)
夜間にボイラーリー室から出火しました。想定で避難訓練を行いました。

参加入居者20名、スタッフ13名で訓練を行い、声も出ており、緊張感の伝わる避難訓練となりました。始めて訓練に参加し車椅子への移乗を経験したスタッフ、ベトナムの留学生も参加しました。初めて訓練に参加し車椅子への移乗を経験したスタッフ、ベトナムの留学生も参加しました。

(森祥二)

居者が暮し宿直者1名で避難誘導を行いました。7名のうち2名の方はスタッフの介助が必要です。また今回新しく入居された方がおられ、初めての避難訓練となりました。事前におひとりおひとりの避難を確認させて頂き、どんな介助がどれくらい必要か確認し、避難誘導の流れを確認することができました。

(佐藤環)



居室から外へ誘導



歩行可能な方は窓から外に避難します。

